（1993 年 11 月 26 日設立）

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

事務局便り

No. 39　2024 年 4 月 12 日

会　長　吉良文孝
事務局　〒605-0927 京都市東山区渋谷通り東大路東入ル３丁目上馬町 544
京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科　松原史典　研究室内
TEL：075-531-9082（内線）FAX：075-531-9120
Email: segu.office@gmail.com
ウェブサイト: https://segu.sakura.ne.jp　郵便振替口座 02260-0-70393　英語語法文法学会

◆会長の交替

本学会会長選出内規に従って2023年9月に行われた会長選挙において、2024年4月からの会長に吉良文孝氏（日本大学）が選出され、2023年10月21日開催の運営委員会および総会で承認されました。任期は2年間です。会長の交替に伴い、事務局業務も京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科（松原史典研究室）に移管いたします。新事務局長は松原史典氏（京都女子大学）です。

◆新会長挨拶

会長就任のごあいさつ

会長　吉良文孝

2024 年 4 月より、中澤和夫前会長の後を受けて会長となりました吉良文孝です。精一杯努める所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

会長就任に際し、あらためて学会「設立趣意書」、ならびに学会機関誌の「創刊号」（1994 年）にある初代会長小西友七先生による巻頭言（「ごあいさつ」）を読みました。読み返してみますと、今更ながらに、自分はなんとすばらしい学会に属しているのだろうと痛感いたします。これまでに、私の所属する日本大学文理学部では本学会の年次大会を数回開催いたしました。次年度開催校委員としてご挨拶の機会をいただいた折、「私はこの学会が大好きなのです！」と、正直な心のうちを吐露いたしました。今もってその気持ちにはいささかも変わりありません（その時よりもさらに好きになっています）。

さて、会長としての私の使命は何かと考えますに、それは、言うまでもありません、本学会をこれまで以上に魅力あるものにしていくことです。ここ数年間の本学会会員数の動向を見ますと、少し前までは 350 人前後を保っていましたが、今では 300 人を少し超える程度の会員数になっているようです。会員数を増やすことが私の使命（の 1 つ）と考えていますが、その対象は、やはり若手の研究者（院生）や中学・高校の現場の先生方であろうと思います。その意味では、年次大会での研究発表やシンポジウムはもちろんのこと、毎夏 8 月に開催される「英語語法文法セミナー」のより一層の充実が望まれます。「シンポジウム」では学問学問したことを、「セミナー」では現場の先生が教場ですぐに役に立ちそうな内容を扱うといった‘棲み分け’が理想であると私は考えます。実際、そのような方向に向かっているものと思います。

英語研究に対してわれわれが目指す研究態度の原点は、学会「設立趣意書」にもありますように、「日々英語を教え、また英語の学問を志す私達にとって、英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにするという態度」です。この原点に立った地道な研究こそがこれまでの英語学を底辺から支えてきたのであり、またそういった学問的交流と研究成果の発表の場を提供することが本学会の使命でもあります。前会長の中澤和夫先生が 4 年前の「新会長挨拶」において、「英語の事実に密着していなければなりません。これが本学会の最重要の基本姿勢」であり、英語を学び研究するなかで、「一番大切なのは何かというと、これはやはり英語を知る」ことであると述べられています。本学会の存在意義、生命線は、ありのままの英語に触れ、ありのままの英語の姿を観察し、英語ということばの実相をつまびらかにするという「実証的で記述的な英語の研究」にあると思います。英語に対する真摯な向き合い、謙虚で地道な研究態度です。

実証的・記述的な英語研究を体現するための具体的な‘英語との向き合い’について少し触れてみます。以下に述べます話は、若い研究者、とりわけて院生の皆さんを想定した話です。それ以外の先生方

にとっては、まさに、釈迦に説法ともいえる話です。「新会長挨拶」にはそぐわない話かもしれませんが、我慢してお付き合いください。

Meaning and the English Verb（2004[3]）の著者である G.N. Leech は、法助動詞の can が知覚動詞（see/hear など）とともに用いられる場合、（1）can は「能力」の意味を失う、（2）can see/hear は状態知覚を表わす、という 2 つの意味特徴を挙げています。確かに、通信状況が悪い場合、Can you hear me?（私の言っていることが聞こえていますか？）のように相手に問いますが、この can は相手の能力（「聴力」そのもの）を尋ねているものではありませんし、また、現に聞こえているのかという知覚の状態を確認するものです。しかし、そう言われると素朴な疑問が湧いてきます。本当に can は「能力」の意味を表わすことはないのだろうか、と。その答えは F.R. Palmer の名著 *The English Verb*（1987[2]）にあります。同書では、I can see very small print. を例示し、この文には、小さな印刷文字が「見えている」と「見る能力がある」の 2 つの解釈が可能である、と述べられています。正鵠を得た言説です。注目すべきは、この例文の主語が、二人称や三人称ではなく、一人称主語であるということです。そこに気づくことができるかどうかが重要です。つまり、現に今、見えている状態にあるのかどうかを知るのは当の本人（一人称主語）だけであり、二人称・三人称主語では実際に見えている状態なのかどうかを私たちは知る由はありません。知覚動詞が「私的動詞」（private verb）と呼ばれる所以です。文法書にある記述を鵜呑みにするのではなく、全神経を集中させ、ときに疑問を投げかけ、自身で納得のいく学びをすることが大切です。派手さはないものの、そういった真摯で地道な研究態度、英語との向き合いが「設立趣意書」にある「英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにする」ことにつながるのだと私は思っています。

本学会は、昨年で学会設立 30 周年を迎えました。本学会の設立発起人でもあり、学会の屋台骨を草創期より支えてくださった三先生による「英語語法文法学会設立 30 周年記念エッセイ」が巻末に掲載されています。和田四郎先生（神戸市外国語大学名誉教授）、赤野一郎先生（京都外国語大学名誉教授）、柏野健次先生（大阪樟蔭女子大学名誉教授）の三先生です。本学会の誕生、確立・発展期を知るための珠玉のエッセイです。私自身もそれぞれの先生とは多くの思い出があり、また、受けた学恩には語り尽くせないものがあります。あらためまして、三先生の学会に対するご尽力に対しまして、心より感謝申し上げます。

最後に、学会事務局長を京都女子大学の松原史典先生に、会計・名簿管理担当を日本大学の小澤賢司先生にお願いしました。学会の活動はひとえに学会員の皆様の積極的な学問研究によっています。今後ともこれまで以上のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

◆前会長退任挨拶

会長退任にあたって

中澤和夫

2024年3月31日をもちまして2期4年、無事に会長の任を終えることができました。思い返すと、2020年は新型コロナウイルス感染症とともに始まり、その爆発的拡大は世界的規模になりました。日本も例外ではなく、多方面で従来の行動が制限されたのはまだ記憶に生々しいところであります。本学会も、この行動制限の直撃を受けました。毎年8月に開催していた英語語法文法セミナーはこの感染症蔓延のために中止、10月に開催予定であった年次大会は、発表者の原稿を本学会ウェブサイト上に掲載という形での開催にこぎつけました。しかし、大会で予定していたシンポジウムは、その性質上、講師と参加者との間での双方向の意見交換がよりふさわしいという判断で、翌年への延期となりました。翌2021年、さらに翌々年2022年は、セミナーと年次大会は共にリアルタイム開催こそ可能になりましたが、オンラインの画像を介してのものでした。オンライン大会のシステム構築については、すべて初めての経験でしたが、多くの方々の献身的努力によってそれが可能となりました。ありがたいことです。関係者の皆様にあつく御礼申し上げます。しかし、まだ隔靴掻痒の感は否めないものがありました。そして、やっと昨年2023年になり、セミナーも年次大会も対面で開催することができました。数年振りの対面開催でしたので、会員の皆様とじかにお会いすることが本当に久しぶりに感じられて、とてもよかったと思っております。

さて、ここで本学会の歴史を簡単に振り返ってみますと、本学会は1993年に設立されたので2023年度でちょうど丸30年を経過したこととなります。30年という年数のなかで、本学会は着実に一歩一歩、歩みを進めて参りました。

具体的には、まず年次大会ですが、これは昨年度で第31回を数え、次に機関誌『英語語法文法研究』については昨年で第30号となりました。また2000年には英語語法文法学会賞を創設いたしました。これは英語の語法文法に関する優れた単行本を出版した本学会会員に対して、その研究を評価し、授与されるものです。2010年には英語語法文法学会奨励賞を創設いたしました。これは、『英語語法文法研究』に掲載された若手会員による優れた論文に対して授与されるものです。さらに、2005年からは、学会活動の社会還元を目的として、毎年夏に英語語法文法セミナーを開催しております。これは、英語に関心のある方々、学生や教員、研究者など、本学

会会員に限らず広く一般の方々にも開かれているセミナーです。このように、本学会は英語の実証的研究を推進し、また優れた研究を顕彰して世に紹介しつつ、会員の皆様の英語研究と英語教育に資する活動を続けて30年、歩み続けてまいりました。

また、本学会の発行する紙媒体の研究成果は、ながらく機関誌の『英語語法文法研究』のみでしたが、本学会設立20周年を記念して『英文法を解き明かす』という全10巻のシリーズも刊行中です。このシリーズは、本学会会員が取り組んでいる英語語法文法研究の新たな視野を提供するもので、その成果は会員の皆様、そして広く社会への還元として参照していただきたいものであります。加えて、本学会は、会員の皆様や社会に向けてさらに貢献できるものはないかと、現在も模索中であります。

このように、私の任期の4年間は、当初はコロナ禍に見舞われたものの、本学会設立30周年という節目を迎えることができたという4年間でした。そして次の10年、20年さらに30年と本学会は続いていきます。幸い、次期会長には吉良文孝先生が就任されるので、ゆるぎない実証的研究を基盤に据えて、本学会を更なる高みに導いてくださることは間違いありません。

最後に、至らぬ会長を支えてくださった事務局の先生方、私の 1 期目は事務局長山本修先生、会計名簿担当吉川裕介先生、2 期目は事務局長西脇幸太先生（西脇先生には 1 期目コロナ禍の事務局長補佐もお願いしておりました）、会計名簿担当佐藤健児先生にはこの場を借りて感謝申し上げます。また、運営委員会や編集委員会の諸先生、そして言うまでもなく、ずっと本学会を見守りご支援くださっている会員の皆様には心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆『英語語法文法研究』第 30 号刊行

『英語語法文法研究』第 30 号が 2023 年 12 月に刊行されました。「第 30 回記念大会特別講演」3 編、「30 周年記念寄稿」2 編、「論文」9 編、「語法ノート」1 編が掲載されています。

◆第 20 回「英語語法文法セミナー」開催案内

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2024（令和 6）年 8 月 7 日（水）
13 時 30 分～17 時 30 分
会場：大阪公立大学文化交流センター ホール
（〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-600
大阪駅前第 2 ビル 6 階）
※ 例年の会場とは異なりますのでご注意ください。
会場ウェブサイト：
https://www.omu.ac.jp/bunkakouryu-center/

以下、会場ウェブサイトより

【JR 大阪駅から】
中央改札口から右手（大丸側）にすすみ、地下街をほぼまっすぐ北新地駅方面へ、徒歩約 7 分で、北新地駅手前、左手に大阪駅前第 2 ビルの地下 2 階フロアー入口に到着します。

【JR 東西線北新地駅から】
北新地駅下車、東口改札口から大阪駅前第 2 ビル地下 2 階フロアーにすぐ入れます。

【地下鉄西梅田駅から】
大阪駅前第 1 ビル方面改札口から第 1 ビルを通り抜けて徒歩 5 分で大阪駅前第 2 ビルに到着します。

【地下鉄東梅田駅から】
南改札口を出て、大阪駅前第 4 ビルに入り、大阪駅前第 3 ビルを通り、大阪駅前第 2 ビルへ徒歩 7 分

参加費：2,000 円（資料代含む）

今回のテーマは、『英語語法文法研究の知見を授業に生かす』です。司会と講師、各講師のタイトルは以下の通りです。

司会・講師：西脇幸太（岐阜聖徳学園大学）「言語活動を適切に行うためのポイント—If I were you の使用実態とレマ化の危険性を例に—」
講師：野中大輔（工学院大学）「英語のよくある言い回しとの向き合い方—「豊かな文法」の立場から—」
講師：内田　諭（九州大学）「大規模コーパスと生成系 AI を用いた語法分析」
講師：井上永幸（広島大学）「コーパスとコーパス準拠の辞書・参考書を使いこなす」
［敬称略］

参加ご希望の方は、本学会ウェブサイト（https://segu.sakura.ne.jp/index.php）にアクセスし、申込フォームに必要事項を記入の上、お申し込みください（申込フォームの利用開始時期につきましては、追って本学会ウェブサイトにてお知らせいたします）。申込み締め切りは7月29日（月）です。必要な方にはセミナー受講証も発行いたします。奮ってご参加ください。

◆第 32 回大会開催案内

英語語法文法学会第 32 回大会を下記の要領で開催いたします。後述の応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願いいたします。

日時：2024（令和 6）年 10 月 19 日（土）
会場：大阪公立大学杉本キャンパス
（〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138）
会場ウェブサイト：
https://www.omu.ac.jp/about/campus/sugimoto/

以下、会場ウェブサイトより
【新大阪から】
1. JR 阪和線「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車…東口すぐ
2. Osaka Metro 御堂筋線「あびこ駅」下車、4 号出口より南西へ…徒歩約 15 分

【関西国際空港から】…約 1 時間
JR 関空快速で「堺市駅」で JR 阪和線に乗換、「杉本町（大阪市立大学前）駅」下車

今回のシンポジウムは、「不定詞構文をめぐる現象」をテーマとして準備中です。司会と講師は以下の通りです。ご期待ください。

司会・講師：松原史典（京都女子大学）
講師：澤田治美（関西外国語大学名誉教授）
講師：佐藤健児（日本大学）　［敬称略］

◆第 24 回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長小西友七先生の寄付金を基金とした第 24 回「英語語法文法学会賞」（2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日までに出版された単行本が対象）は、出水孝典（神戸学院大学）著『語彙アスペクトと事象構造（上）（下）』（2023 年 2 月 開拓社）に授与されることが、2023 年度総会（10 月 21 日於 桜美林大学町田キャンパス）にて中澤和夫会長より報告され、表彰が行われました。

◆第 25 回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第 25 回英語語法文法学会賞対象図書の推薦（他薦に限る）を受け付けております。対象図書は 2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日までに出版された単行本です（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全 10 巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください）。

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、fax あるいは郵便で 2024 年 5 月 10 日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容を email で事務局までお知らせください。

事務局：
〒605-0927 京都市東山区渋谷通り東大路東入ル３丁目上馬町 544
京都女子大学文学部英語文化コミュニケーション学科
松原史典　研究室内
FAX: 075-531-9120
Email: segu.office@gmail.com

英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

◆第 14 回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第 14 回「英語語法文法学会奨励賞」は、慎重審議の結果、該当者なしとなりました。

なお、第 15 回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年 7 月 10 日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

英語語法文法学会奨励賞授賞規定

（授賞の対象）

第2条 奨励賞は、毎年 7 月 10 日を締切日とする『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文（単著）に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締切日の時点で、39 歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後 10 年以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。

（選考方法）

第 3 条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに 1 篇以内とする。

（選考結果の発表および授賞式）

第 4 条 授賞式は年次大会において行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

（関係部分一部抜粋）

◆運営委員の交替

本年3月4日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方の就任が承認されました（任期は2024年4月1日より2026年3月末日まで）。

村上まどか（実践女子大学）
大澤　舞（獨協大学）　［敬称略］

また、本年3月末日をもって、以下の方が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

濱松純司（専修大学）　［敬称略］

◆会計・名簿管理担当の交替

佐藤健児先生（日本大学）が本年度末をもって会計・名簿管理担当を退任されました。これまでのご尽力に対し心より感謝申し上げます。後任として小澤賢司先生（日本大学）が会計・名簿管理担当に就任することが本年 3 月 4 日開催の運営委員会において承認されました。

◆各運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記の通りです（◎は委員長、〇は副委員長）。

大会実行委員会
◎吉川裕介　〇山岡 洋　住吉 誠　出水孝典
吉田幸治　中澤和夫　［敬称略］
セミナー委員会
◎金澤俊吾　〇大澤 舞　西脇幸太　前川貴史
五十嵐海理　山本 修　村上まどか
［敬称略］

◆第32回大会研究発表者募集

第 32 回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定に従い、事務局宛（segu.office@gmail.com）に奮ってご応募ください。

なお、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜研究発表応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 25 分以内（別に質疑応答が 10 分）とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
   ① 発表要旨（MS Word ファイルあるいは PDF ファイル）：
   A4 判 32 字×25 行（文字の大きさは 12 ポイント）で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。
   ② 応募者情報（MS Word ファイル あるいは PDF ファイル）：
   発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。
   4-1. 本学会事務局宛（segu.office@gmail.com）に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。
   4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力のうえ、送信すると応募者本人に受領のメールが届く（英語語法文法学会の Gmail アドレスにもメールが届く）。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。
   （4-1）事務局へのファイルの送付と（4-2）研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。
5. 応募締め切りは、（4-1）事務局へのファイル送付と（4-2）研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分（必着）とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500 字以内）と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

（2019年3月10日 改定）

［応募用ウェブサイトについて］
上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7 月 10 日より学会ウェブサイトから利用可能となります。
［お願い］
応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

◆第 32 回大会語法ワークショップ発表者募集

第 32 回大会での「語法ワークショップ」の発表者を募集します。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛（segu.office@gmail.com）に奮ってご応募ください。

なお、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Form による投稿確認との 2 段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

＜語法ワークショップ応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2 名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は 15 分以内（別に質疑応答が 5 分）とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
   ① 発表要旨（MS Word ファイルあるいは PDF ファイル）：
   A4 判 32 字×25 行（文字の大きさは 12 ポイント）で、本文と注を含めて 4 枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。
   ② 応募者情報（MS Word ファイルあるいは PDF ファイル）：
   発表題目、氏名（ふりがな）、所属・職名（学生会員は学年も記入）、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。
4. 上記①と②は、次の 2 つの手続きにより提出すること。
   4-1. 本学会事務局宛（segu.office@gmail.com）に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。
   4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力のうえ、送信すると応募者本人に受領のメールが届く（英語語法文法学会の Gmail アドレスにもメールが届く）。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。
   （4-1）事務局へのファイルの送付と（4-2）語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。
5. 応募締め切りは、（4-1）事務局へのファイル送付と（4-2）語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7 月 25 日 23 時 59 分（必着）とする。
6. 選考結果は 8 月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨（500 字以内）と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。

（2019 年 3 月 10 日 改定）

［応募用ウェブサイトについて］
上記規定の 4-2 にある「語法ワークショップ応募用ウェブページ」は、7 月 10 日より学会ウェブサイトから利用可能となります。
［お願い］
応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

【応募上の注意】
研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。
また、二重投稿はご遠慮ください。

◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第 31 号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いします。

なお、英語語法文法学会奨励賞授賞規定の改定（2023 年 3 月 11 日）に伴い、投稿規定が一部改定されておりますのでご注意ください（下記６②の下線部を参照）。

＜『英語語法文法研究』（第 31 号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは **7 月 10 日（必着）**、採否決定を 8 月中旬、刊行を 12 月とする。
4. 単著・共著にかかわらず、同一人が同時に 2 本以上の論文を投稿することはできない。論文と語法ノートに各 1 本（計 2 本）、あるいは語法ノートのみに 2 本以上の投稿は認められる。
5. 論文の場合、長さは 34 文字×31 行、16 枚以内とする。語法ノートの場合、長さは 34 文字×31 行、6 枚以内とする。注は脚注とし、脚注の文字数も論文・語法ノートに規定された総文字数に含める。
6. 投稿者は、下記①と②の電子ファイル、ならびにその紙媒体を用意する。
   ① 「論文」・「語法ノート」の原稿（MS Word ファイルまたは PDF ファイル）
   冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しない。また、ファイルの情報として作成者名を残さない（ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする）。
   ② 執筆者情報（MS Word ファイルまたは PDF ファイル）
   論文題名、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、email address を明記する（共著の場合は、執筆者全員の情報を明記のこと）。投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募の応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月（または、在籍中ならばその旨）を、このファイルに明記すること。（奨励賞の対象は研究論文（単著）に限る（シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）。応募者は上記の締切日の時点で、39 歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了後 10 年以内の学会会員に限る。なお、同賞の授賞は過去に受賞のない者に限る。）
   なお、紙媒体については、①と②を、A4 用紙にそれぞれ 1 部印刷する。
7. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
   a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
   b. 例文の前後に1行ずつの空白行を設ける。
   c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設ける。
   d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しない。
   e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
   f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
   g. 小説・論文の出典は下のように表記する。(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
   h. 上記以外は既刊号の論文を参考にすること。
8. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。

Hopper, P. J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213–241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993.「easy タイプの形容詞の 3 つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145–154. 東京：英宝社.

小西友七. 1976a.『英語の前置詞』東京：大修館.

小西友七. 1976b.『英語シノニムの語法』東京：研究社.

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235–289.

村田勇三郎. 1979.「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第 125 巻第 3 号, 20–21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363–373.

9. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
10. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
11. 原稿料は支払わない。
12. 応募書類の提出先
第6項の①と②の電子ファイルは email に添付して、編集委員長宛に email（segu.paper@gmail.com）で送ること。件名を「投稿」とする。また、①と②の紙媒体は、編集委員長宛*に郵送すること（「投稿論文在中」と朱記）。

*〒950－2181
新潟市西区五十嵐2の町8050番地
新潟大学人文社会科学系　大竹芳夫

（2023年3月11日改定）

【応募上の注意】
研究発表との二重応募、他学会の機関誌との二重投稿はできません。

◆英語語法文法学会第31回大会（報告）

英語語法文法学会第31回大会は2023年10月21日（土）、桜美林大学町田キャンパスにて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めてくださった住吉誠先生、都築雅子先生、谷光生先生、野村忠央先生、開催校委員の山岡洋先生、工藤俊先生、お手伝いいただいた桜美林大学の学生、日本大学卒業生の方々にお礼を申し上げます。

語法ワークショップ　**10:30-11:45**

（徳望館4階 AT-401教室）
1. 「移動を表す前置詞句について」
西前　明（函館大学）
2. 「名詞 interest に後続する句」
桑名保智（旭川医科大学）
3. 「談話標識の but と対応する日本語の逆接表現」
田岡育恵（大阪工業大学）

研究発表　**13:00-14:45**

第1室（徳望館4階 AT-401教室）
1. 「Deny の持つ否定意味解釈―否定辞繰り上げとの関連から―」
伊藤一輝（東京外国語大学大学院）
2. 「2種類のことわざ表現 *No X, no Y* 構文―Xの勧め・No X の勧め―」
田村　心（筑波大学大学院）
3. 「現代英語における speak of the devil の生産性と創造性」
山内　昇（大同大学）

第2室（徳望館4階 AT-404教室）
1. 「非制限現在分詞関係節の派生的性質」
髙松　龍（東京大学大学院）
2. 「英語の「特別用法」の it をめぐって―日本語の指示表現との関連から―」
山本茉莉、山内信幸（同志社大学大学院、同志社大学）
3. 「パラダイム内ギャップへの補完操作とその拡張力の段階性: people worldwide から people globally への拡張プロセスを事例に」
松田佑治（名古屋学院大学）

シンポジウム　**15:35-17:45**

（徳望館4階 AT-401教室）
テーマ「現代英語に見る歴史の痕跡」
司会 野村忠央（文教大学）
1. 「英語の経験事実から見た偏流理論、一方向性仮説」野村忠央（文教大学）
2. 「"Be not afraid"―現代における定形の *be* を考える」村上まどか（実践女子大学）
3. 「歴史的変遷からみた現代英語における文法的主語の頻度」家口美智子（金沢大学）
4. 「BE 動詞に刻まれた言語進化の痕跡」
保坂道雄（日本大学）

懇親会　**19:00-20:30**

プラネット淵野辺キャンパス1階

◆2023年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に入会されました。どうぞよろしくお願いいたします（50音順。掲載希望者のみ）。

浅井　良策（豊橋技術科学大学）
池田　拓誉（北海道大学大学院）
石原　健志（大阪星光学院）
伊藤　一輝（東京外国語大学大学院）
田中　悠介（福岡大学）
山本　茉莉（同志社大学大学院・びわこ学院大学非常勤講師）

［敬称略］

◆2022 年度会計報告（Apr. 2022 - Mar. 2023）

（第 31 回大会総会において承認されました。）

（収入）	（以下、単位：円）
前年度繰越残高	4,697,554
会費	1,418,000
学会誌売り上げ	38,114
懇親会費	0
雑収入	15,331
計 (1)	6,168,999
（支出）	
事務局費	78,240
通信費	187,942
旅費交通費	127,250
印刷費	19,483
人件費	0
会議費	4,651
消耗品費	23,491
雑費	5,022
雑誌製作費	814,161
大会運営費	0
計 (2)	1,260,240
残高現在 [計(1)－計(2)]	4,908,759

◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、「一般会員」は 5,000 円、「学生会員」は 4,000 円となっております。つきましては、2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください。金額欄が 10,000 円または 8,000 円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が 2 年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学（院）名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、**住所・所属に変更や異動のある方は、必ず英語語法文法学会のウェブサイト（https://segu.sakura.ne.jp/）の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせください**ますようお願い申し上げます。また、**メールアドレスをご登録でない方は、事務局までお知らせください。今後、メールでご連絡を差し上げる可能性がございますので、ご協力をお願いいたします。メールアドレスを変更された場合も、必ずご連絡ください。**

本学会では自然災害等における被災者に対しては、原則として災害発生年度の学会費を免除しております。対象となる方は事務局までご連絡ください。

◆新刊書紹介

藤井聖子・内田　諭『フレーム意味論とフレームネット』東京：研究社. 2023 年 5 月.

石原健志・倉林秀男『基礎英文のテオリア　英文法で迫る英文読解の基礎知識』静岡：Z 会. 2023 年 7 月.

ことばのまなび工房（監修）若林茂則（編）大津由紀雄・吉田研作・尾島司郎・中川右也・柴田美紀・冨田祐一・白畑知彦・松村昌紀（著）『英語の教室で何ができるか』東京：開拓社. 2023 年 9 月.

町田　章『AI 時代に言語学の存在の意味はあるのか?　認知文法の思考法』東京：ひつじ書房. 2023 年 9 月.

吉田幸治（編）金澤俊吾・鈴木大介・住吉　誠・西田光一・吉田幸治（著）『言語・文化選書 101 話し手・聞き手と言語表現　語用論と文法の接点』東京：開拓社. 2023 年 9 月.

今井亮一・平沢慎也『スローでディープな英文精読：〈ことば〉を極限まで読み解く』東京：研究社. 2023 年 11 月.

Talmy, Leonard（著）岩田彩志・菊田千春・西山淳子（監訳）對馬康博・藤川勝也・岩田彩志（訳）『認知意味論を目指してⅡ―Toward a Cognitive Semantics―』東京：開拓社. 2023 年 11 月.

北村一真『英語の読み方 リスニング篇―話し言葉を聴きこなす』東京：中央公論新社. 2024 年 3 月.

Talmy, Leonard（著）岩田彩志・菊田千春・西山淳子（監訳）岩田彩志・辻早代加・五十嵐海理（訳）『認知意味論を目指してⅢ―Toward a Cognitive Semantics―』東京：開拓社. 2024 年 3 月.

◆終身会員

2020 年の大会で終身会員制度が認められ、発足しました。該当する会員は、本学会 HP の「学会規約」タブの中の「終身会員規定」の条件を確認したのち、本学会 HP の「入会方法について」タブの中の「終身会員の手続き」をご覧ください。

また、周りに終身会員に該当すると思われる方がいる場合は、その方々にこの制度を周知していただけますようお願いいたします。

英語語法文法学会
設立 30 周年記念エッセイ

本学会は 1993 年に設立され、昨年、設立 30 周年を迎えました。それを記念して、草創期に学会の基礎を築いてくださった先生方のエッセイを掲載いたします。

英語語法文法学会の誕生

和田四郎（神戸市外国語大学名誉教授）

本学会の名称は一見すると研究の対象が英語語法と英語文法のように二つであるのかそれとも英語の語法文法のように一つの分野の研究を意味しているのか曖昧に響く。そもそも語法と文法にはどのような違いがあるのであろうか。従来、この二つの概念の相違は明らかであり、同じ土俵に乗せて論ずることは許されないといった風潮が支配的であったように思われる。

しかし、ことばは単位としての語が構造を形成することによって初めて伝達機能を果たす。したがって語と構造はことばを特徴づける二つの必須要素でありこれら二つの要素を切り離して論ずることはできないはずである。語法は語を対象とし、文法は文を対象とするという二分法の姿勢がいつの間にか研究の基本的な原則であるかのような意識が浸透し、語法文法という表現もほぼ学会の中からは消えた。

本学会の母体となった六甲英語学研究会は神戸市外国語大学小西友七先生のゼミ生と関係者で構成され、研究会や談話会が活発に活動し、全国的にも高い注目や関心を惹いた。しかし、語法研究は当時新興のアメリカ言語学の生成理論などに押され、各種の英語学関係の学会発表においても正当な評価を得られたとは言い難い状態であった。英語学関係の学会発表は最大の学会であった日本英文学会においても当初は一つのシンポジウムと数件の研究発表であり、そこに語法研究の入り込む余地はほとんどなかった。その後 1983 年に設立された日本英語学会で英語学関係の発表は改善されたが、その中身も当時活発に行われた生成理論などの理論研究が多くを占め、語法研究に光が当たることは少なかった。

しかし、1990 年（?）ごろの六甲英語学研究会の月例会で語法学会設立が提案され、その後の例会慰労会は新学会設立の相談会となり、新学会設立の 1993 年 11 月まで打ち合わせは続いた。そこでの議題は新学会の名称が主であった。小西先生が辞書の権威であり、語法研究者として著名であることから「英語語法学会」という名称がすぐに浮かんだが、文法という用語を残すべきという意見も根強かった。

この名称は新学会の特徴を端的に伝えるものである。語法と文法を結合させ、英語という言葉がひとつの統一体として研究の対象とすることを宣言した。ちょうど頃を同じくして、Word Grammar という英語を見かけるようになった。英語という言語を一つの統一体として捉える流れが始まったといえる。

言語はある単位が構造を形成することにより伝達される。したがって単位と構造を切り離すことはできない。そして、構造を形成することは何らかの規則性あるいは法則が存在することを意味している。『広辞苑（第 4 版）』には「法」には「物事の普遍的なあり方」「真理を表現した教説」「仏の教え」などの意味が記載されているが、これらはいずれも神から与えられたものではなく、人間が定めたものである。人間が定めたものであるからそれは人間によって認識されなければならない。自然界にも各種の法則が存在するが、人間がそれらを発見するまでは法則とは認識されない。つまり、自然界に存在する事象はすべて何らかの法則の下に秩序立って存在し、それらを発見するためには人間の意図的な努力が必要ということになる。

==========

事務局長時代のこと

赤野一郎（京都外国語大学名誉教授）

「英語の具体的な語彙や構文の特性を一つ一つ明らかにする」（学会設立趣意書より）ことを目的に、英語語法文法学会は初代会長小西友七先生のもと、1993 年 11 月 26 日に立命館大学においてに第 1 回大会が開催され、昨年めでたく 30 周年を迎えた。草創期から本学会に関わってきた筆者にとって感慨深いものがある。特に初代事務局長和田四郎先生の後を継ぎ、事務局長の任を仰せつかった 1997 年から 2001 年の 4 年間は、忘れがたい日々だった。当時の記憶をたどりながら事務局長時代のことを以下に記してみたい。

同僚だった柳田博明氏に会計を依頼して始まった事務局の仕事は予想を超えるものだった。今日ではいずれの学会でも任務の分担、作業の分業が当たり前になっているが、設立から数年の本学会では、運営委員は 10 名いたものの、裏方的な仕事の大半

は事務局長に集中していた。

運営委員会の主な仕事は、決算報告と予算審議、新企画の検討（この時期にワークショップが開始され、学会賞が創設された）、開催校の選定、研究発表応募者の書類選考、シンポジウムの立案、大会プログラムの決定、開催校での打合せと下見等だが、それに伴うすべての資料作成と、関係者への連絡は事務局長の仕事である。これ以外に、当時は機関誌『英語語法文法研究』が会員に届くまでの諸々の仕事が事務局長に任されていた。

第 8 号からは開拓社に委ねることになったが、それまでは事務局長が原稿の依頼と回収、および版下の作成を行い、大阪市内の印刷所に送っていた。執筆者から送られてきた Word ファイルを開いてみると、レイアウトや参考文献の書式が不統一だった。いちばん問題だったのは、スペースキーで文字列を動かし、レイアウトを整えているファイルがほとんどで、版下としては使いものにならなかったことである。スペース自体が文字コードであるため、そのままファイルを印刷用にコンバートするとその部分が不要な情報として変換されてしまうからである。筆者は Word の DTP 機能を駆使し、各ファイルに対して、まずスペースという「文字」を削除した後、フォント、文字サイズ、行間、段落間等の書式を整え、余白、各要素の位置と大きさ、ページ番号の配置等のレイアウトを行った。

会員への機関誌の発送も大変だった。印刷所から送られてきた約 400 冊が梱包された段ボール箱を開封し、1 冊 1 冊袋詰めした後、封をしてから宛名を印刷したシールを貼る。妻と子供２人を動員しこの作業を行った。封入した機関誌を段ボール箱に梱包し直し、車で郵便局に持ち込み、発送を完了したのだった。それに懲りて翌年からは、学生にアルバイトとして封入と梱包の作業を依頼した。それでも勤務校近くの郵便局に段ボール箱を持ち込むのは、依然として私の仕事だった。今では発送までのすべての作業を出版社が行っている。隔世の感である。

英語語法文法学会誕生の頃

柏野健次（大阪樟蔭女子大学名誉教授）

[1]

本学会は「個別言語の記述的体系化」「個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにする」（設立趣意書）ことを目的に 1993 年に創設され、設立大会は同年 11 月 26 日（金）に立命館大学にて開催された。

当日、私は勤務先の入試業務の関係で総会から参加したが、まず会場の人数の多さ（約 170 名と聞く）に驚いた。会場全体が熱気に満ち溢れていたことを今でも鮮明に覚えている。来場者には初代会長の小西友七先生がお見えになるという期待があったのだろう。

初代会長に関しては、設立発起人の中で小西先生にお願いすることに決まっていた。先生に連絡をする役が私に回ってきたので、ご自宅にお電話を差し上げた。先生は最初、固辞されて児玉徳美先生に依頼するようにと言われたが、最終的には「形の上だけでいいのなら」ということで引き受けていただいた。実際の事務等は初代事務局長の和田四郎先生が代行されていたと記憶する。

[2]

当初は英語学界で英語語法研究に対する需要がどの程度あるのかが不明で、発足に関しては弱気な面も垣間見られた。発起人のメンバー数人で設立前年の 1992 年秋に東京外国語大学で行われた日本英語学会で語法に関する研究発表を行ったり、第１回大会から第４回大会までは英語学会が開催される土曜、日曜の前日に本学会の日程を組んだのもその現れだったと思う。

[3]

創設後 30 年を経た今、本学会の機関誌『英語語法文法研究』の創刊号（1994）を改めて読み返してみると、巻頭の「ごあいさつ」にある『英語語法文法学会』とは「何度、目にし口にしてもすばらしい名ではないか」という小西先生の文言が目に入った。この先生の感動を引継ぎ、「関西の語法学派ここにあり」（先生の言葉）ということを世に知らしめるためにも今後の本学会の更なる発展を期待する。

編 集 後 記

2020 年 4 月から 2024 年 3 月までの 4 年間、事務局長の補佐および事務局長として大変、お世話になりました。会員の皆様のおかげで、無事に任務を終えることができ安堵しております。皆様のご理解・ご協力に心より感謝申し上げます。

前会長の中澤和夫先生、前会計・名簿管理担当の佐藤健児先生には、運営委員会やセミナー、大会などの行事が近づくと毎日のようにやり取りをさせていただき、多大なるご支援をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。また、事務局長経験者の山本修先生、吉田幸治先生、会計名簿・管理担当経験者の吉川裕介先生には、幾度となく適切なご助言をいただき助けていただきました。運営委員の先生方は、私の行き届かないところをいつもカバーしてくださいました。すべての先生方のお名前を挙げることは叶いませんが、心より感謝申し上げます。

2024 年 4 月からは、会長に吉良文孝先生、事務局長に松原史典先生、会計・名簿管理担当に小澤賢司先生が就任されます。会員の皆様におかれましては、引き続き温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。本学会が益々、発展することを祈念してご挨拶とさせていただきます。

（2024 年 4 月 12 日　西脇幸太）